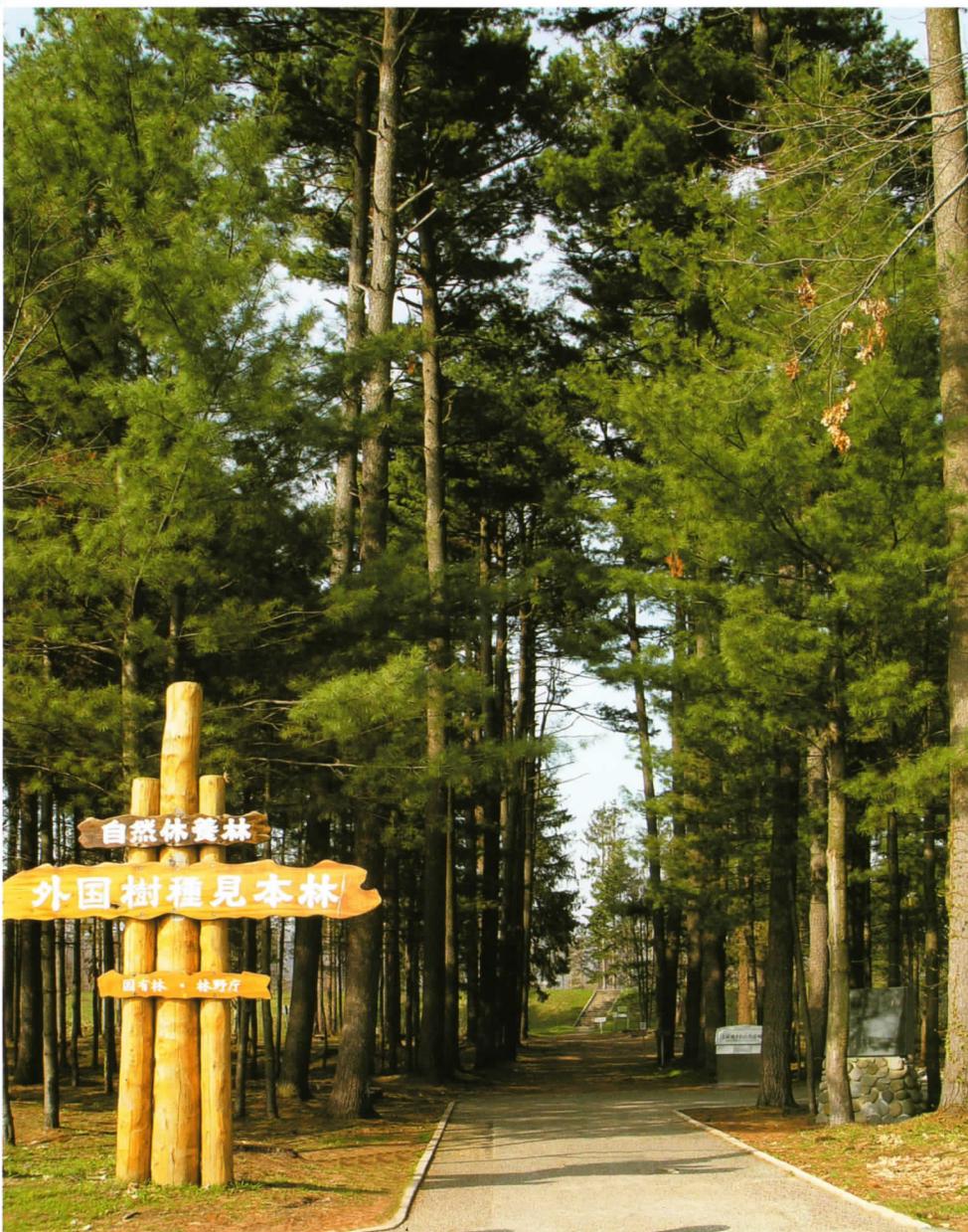


旭川の国有林 「外国樹種見本林」を知ろう



三浦綾子「氷点」のふるさと外国樹種見本林

北海道森林管理局
上川中部森林管理署

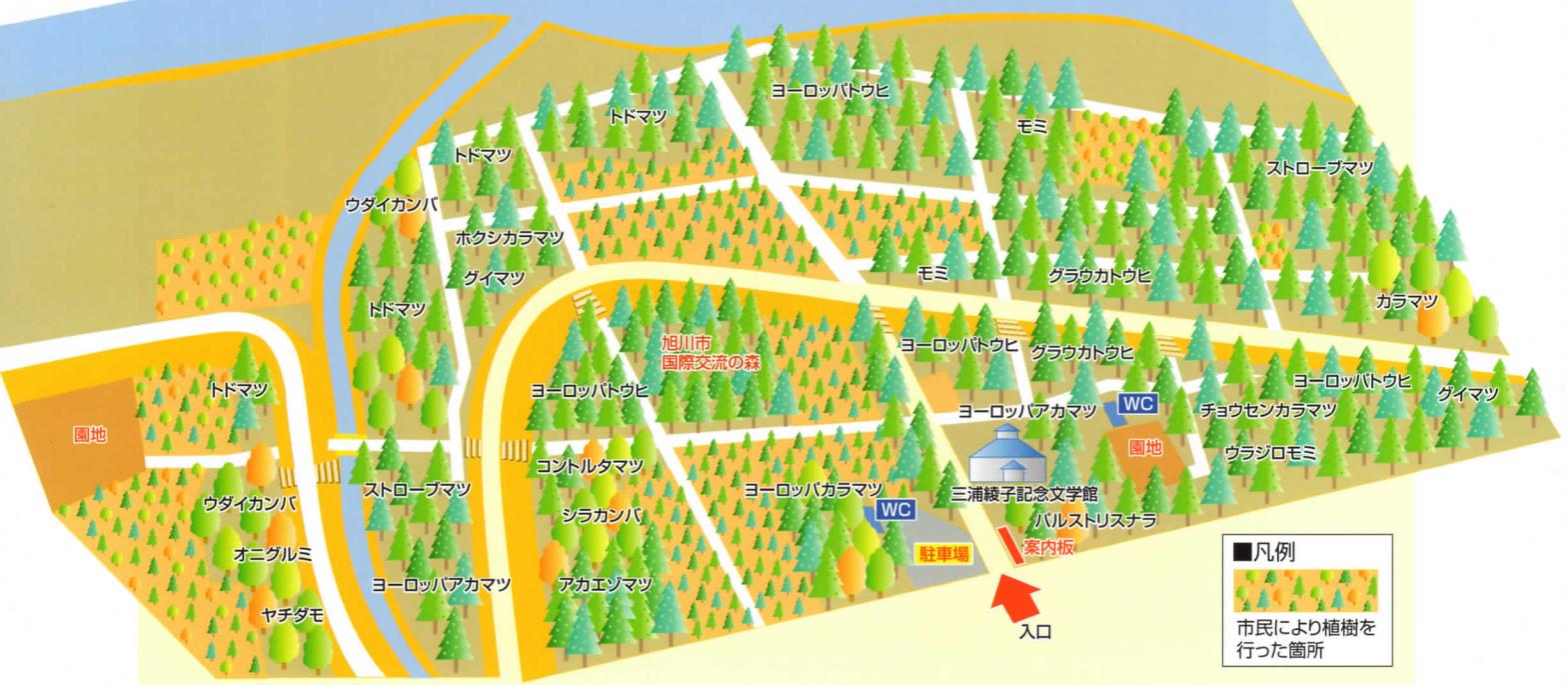
■ 外国樹種見本林について



■位置図



美瑛川



■ アクセス

外国樹種見本林は、JR旭川駅から南西に1.3km、美瑛川のほとりにあります。

国道237号線が近くを通っており、入口付近には、駐車場（無料）と三浦綾子記念文学館があります。

見本林内は自由に散策できます。面積は約15haで散歩道が整備されています。

■ 造成の背景

造成が開始されたのは1898年（明治31年）で、当時、木材需要に応え、山地災害を防止するともに漁獲高の回復を図るため、北海道の森林資源を早急に充実させる必要がありました。

そこで、当時苗木生産技術のあった外国の樹種を中心に、優良な樹木を導入していく取組みの一環として、それぞれの樹種の特性を確認しそれを展示するために造成されることになりました。

外国樹種見本林の歴史

1898年(明治31年)

見本林造成開始

当時は、急速な北海道開拓により河川の氾濫、漁獲高の減少、用材や薪材の不足をきたしており、伐採跡地への造林の必要性が認識され、クラークやケプロンの指導の下に外国樹種の養苗・育成が行われるようになりました。

この年、まずストローブマツ、ヨーロッパカラマツ、ヨーロッパアカマツの3種が植栽されました。その後、いろいろな樹種が追加され、これまで内外50余種が植栽されています。

造成後、歳月を経るに従い、都市林としても重要な役割を果たすようになりました。

1965年(昭和39~40年) 三浦綾子「氷点」が朝日新聞に掲載される

この外国樹種見本林が「氷点」の舞台となったことから、一躍有名になり、全国の三浦文学ファンが訪れるようになりました。今では、海外からの三浦文学ファンも珍しくない状況です。

1970年(昭和45年)

外国樹種見本林が「レク森」に位置付けられる

「レク森」(レクリエーションの森)は、一般市民に国有林を積極的に開放し、親しんでもらおうとするもので、自然環境に触れられるよう遊歩道、看板、トイレなどの整備が進められました。

1998年(平成10年)

三浦綾子記念文学館設置される

全国三浦文学ファンの熱い想い、関係団体・地元自治体などの連携により、「氷点」の舞台となった外国樹種見本林に、三浦綾子にゆかりの資料を収集保存し、展示・紹介する施設として「三浦綾子記念文学館」がオープンしました。

2004年(平成16年)

台風18号により大被害

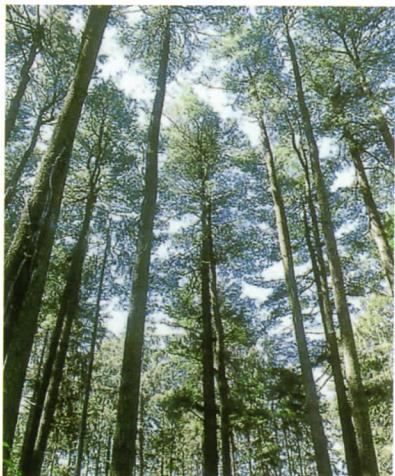
造成後百年の歳月を経てみごとな姿となった外国樹種見本林でしたが、予想もできない台風の猛威の前に、大きな木を中心に大打撃を受け、大面積で樹木の失われた箇所があちこちにできました。

2005年(平成17年)

復活に向け協議会を設立、募金・植樹活動を開始

外国樹種見本林の価値を認識し、是非とも復活させたいという旭川市、地元町内会、NPO、関係機関、三浦文学関係者などの手により協議会が組織され、復活に向けた活動が進められています。

■ 外国樹種見本林に植えられている樹木



明治31年植栽ストローブマツ



明治35年植栽ヨーロッパトウヒ



春を告げるキタコブシ



■小説「氷点」に登場する樹木

文中の例

風は全くない。東の空に入道雲が、高く陽に輝いて、つくりつけたように動かない。ストローブ松の林の影が、くつきりと地に濃く短かかった。その影が生あるもののように、くろぐろと不気味に息づいて見える。

旭川市郊外、神楽町のこの松林のすぐ傍らに、和、洋館から成る辻口病院長邸が、ひっそりと建っていた。

このほか、

バンクシャ松

ドイツトーヒ

欧洲赤松

トド松

カナダトーヒ

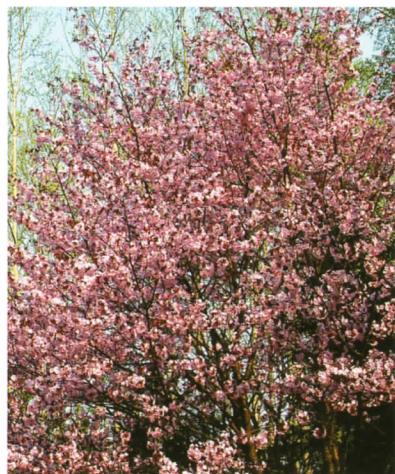
ムラヤナ松

モンタナ松

などが登場します。



チョウセンゴヨウの芽生え



サクラの風景



カエデの風景